

故により延期を余儀なくされた経過があります。参加者は102名で被災地域からの参加もありました。

テーマは「進めよう! 地域連携～退院支援・在宅医療を支える医療連携～」で、「安全管理・業務改善」「地域連携・多職種連携」をカテゴリーとして、一般口演20題の発表とクリティカルパスの展示が行われました。口演内容は多岐にわたり活発な意見交換がありました。また、特別講演は「地域医療を支える医療連携」と題して放送大学教養学科教授の田城孝雄先生にお話ししていただきました。地域連携の現状から今後の方向性まで、具体的なケースや多数の資料を用いてご講演いただき、盛会のうちに終了致しました。

本学術集会の開催にあたり、ご協力いただきました皆様方に心より感謝申し上げます、開催の報告と致します。

第3回愛媛県支部学術集会

学術集会会長：松山赤十字病院副院長 藤井元広



会場風景

2012年11月10日(土)松山赤十字病院教育講堂において、第3回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会を開催しました。第3回支部総会、第3回支部役員会もあわせて開催し、支部の活動、支部会員数114名(2012年10月23日現在)の報告などを行いました。

学術集会では、「組織運営とチーム医療」をテーマに、一般演題31題、特別講演：「病院のガバナンスと医療バランス・スコアカード(BSC)」(演者 瀧上忠彦先生; 松山赤十字病院院長)の口演があり、パネルディスカッションの「チーム医療にて提供するもの」では「口腔ケア・NST、感染対策チーム、転倒予防対策チーム、緩和ケアチーム」についてパネリスト7名による発表がありました。

出席者は日本医療マネジメント学会愛媛県支部会員69名、一般参加者75名の計144名で、盛会でした。今後愛媛県での医療マネジメントを浸透させ、県支部の活動をさらに充実、活性化させ、2013年の第15回日本医療マネジメント学会学術総会(会場：岩手県盛岡市)への参加を呼びかけました。今回の開催に当たり、ご協力をご支援いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

第11回山口県支部学術集会

実行委員長：国立病院機構岩国医療センター副院長 牧野泰裕

2012年11月10日(土)、シンフォニア岩国において「医療と地域の安心安全」をテーマに第11回山口県支部学術集会を開催しました。約250名の参加があり、一般演題口演10題、ポスター発表11題に活発な討論が行われました。

8題のクリティカルパス展示もありブースには演者を交えて熱心に情報交換をする姿がみられました。シンポジウムは「がん診療におけるチーム医療～地域連携クリティカルパスの現状と課題～」と題して5名のシンポジストがそれぞれの属する医療機関の視点を通して意見交換を行いました。県内のがん連携の全体が把握できたとして参加者に好評でした。特別講演は岡山大学病院経営戦略支援部長の合地 明先生に「病院経営とTPP導入」をテーマにTPPと日本の医療について、医療の市場化、ISD条項、公的医療保険制度への影響、米韓FTAの実情ならびに今後予想される対日要求などについて詳しくお話しいただきました。折しもTPPが再燃した時期にTPP参加による具体的な将来予測を示していただけたことで非常に参考になりました。皆様の積極的なご協力で盛会のうちに学会を終えることができました。深く感謝を申し上げます。

第8回愛知県支部学術集会

当番世話人：トヨタ記念病院副院長 安田武司



会場風景

2012年11月17日(土)、名古屋ミッドランドスクエア5階ミッドランドホールにおいて第8回日本医療マネジメント学会愛知県支部学術集会が開催されました。「「超高齢社会」

チーム医療・連携は進化し続ける」をテーマとし、ランチョンセミナー1題、特別講演1題、一般演題15題の発表が行われました。

ランチョンセミナーはトヨタ記念病院神経内科科部長 伊藤泰広先生に座長をお願いし、国立長寿医療研究センター脳機能診療部部長もの忘れセンター神経内科科部長 鷲見幸彦先生に「認知症を病院で診る－認知症ユニットと認知症サポートチーム－」についてご講演いただきました。認知症をチーム医療でマネジメントケア－行う新しい試みについての示唆に富むご講演でした。

特別講演は社会医療法人近森会理事長 近森正幸先生に「多数精鋭のチーム医療－膨大な業務をいかに質高く効率的に処理するか－」と題して講演いただき、日本でも超高齢化が進んでいる高知市における質の高いメディカルスタッフのチーム医療の実践について具体例を示しながらの明日にでも役立つ熱気あふれる講演でした。

一般演題は、医療の質向上、医療安全、チーム医療、地域連携など活発な質疑応答がありました。参加者数は308名で会場はほぼ満席の状態でした。